

施策番号 1-1-3	施策名 農地・土地改良施設等の整備・充実	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	我妻 修一	内線	242
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
国・北海道への事業予算確保を要望し、計画的な土地基盤整備をすすめ安定的な農業生産を支援します。		農地・土地改良施設・農業用水施設・農業経営体		・土地基盤の計画的整備が図られる ・土地改良施設・農業用水施設の整備と適正な維持管理が図られる				基盤産業である農業の生産基盤となる、農地・土地改良施設・農業用水施設を整備・監理することで、農業経営の安定化と農業産出額の維持・向上を図る	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標		
① 土地改良事業整備済み面積	土地改良事業一覧表による面積	ha	19,061	20,131	20,470	20,671	20,588		
② 良好に管理されている明渠施設の延長	農林課調べ	km	226.0	233.5	233.5	236.8	233.0		
③ 利用できる農業用水施設の延長 農業用水施設の延長	農林課調べ	km	430.0	430.5	432.7	444.8	432.0		
④									
成果指標設定の考え方	①土地基盤整備の成果指標として、今後の道営事業の計画に基づき設定したもの。 ②適正な維持管理により現状の明渠施設を継続利用できることを指標とした。 ③事業計画に基づき設定。適正な管理により利用できる延長を維持する考え方。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費(千円)	688,145	618,243	705,457	687,491
人工数(業務量)	5,1252	5,5430	4,2517	4,4951

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2021年度の成果評価 (前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・計画的な基盤整備、施設維持管理により成果は向上
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・国営・道営の土地改良事業を有効に活用した、計画的な基盤整備の実施、土地改良施設の適切な管理をすることで目標の達成が見込まれる。
(2) 施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	道営土地改良事業 農業用水施設維持管理事業 土地改良施設維持管理事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・道営土地改良事業については、実施主体である北海道と協議をしながら、受益者の要望把握など地元調整の役割を担い、財源調整(当初予算、補正予算)を含め計画的に実施した。 ・農業用水施設、土地改良施設については、営農に支障のないよう緊急性なども考慮し適切な管理(修繕対応等)を実施した。 ・国営芽室川西地区の共同管理施設、小水力発電施設(会計含む)の維持管理手法について、帯広開発建設部の助言を受けながら、帯広市と協議を進めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	・地元負担を極力抑えながら、計画的に国営・道営の土地改良事業を実施することで、基盤整備は計画策定時より進んでいると考える。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		

A: 実現した

B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に土地改良事業で整備した施設(明渠、管路、給水栓等)の老朽化が進み、修繕・更新の要望が増加している。 ・新規地区については、中・長期的な展望での受益者要望の聞き取りをしていく必要がある。 ・国営芽室川西地区の、共同管理施設、小水力発電施設(会計含む)について、維持管理手法を整理する必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	・規模拡大に伴って取得した土地改良事業未実施農地への基盤整備要望

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・道営土地改良事業については実施地区3地区を基本として、実施主体である北海道と連携し、継続地区の事業推進、新規地区の計画策定、受益者要望の把握など採択に向けて取り組む。 ・国営芽室川西地区については、共同管理施設、小水力発電施設の維持管理手法を決定し、帯広市と協定を締結する。 ・団体営事業を活用した小規模基盤整備や、制度改善要望などにより、柔軟な対応ができるよう進める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価・担当課評価同様に、C前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見		<p>A: 実現した</p> <p>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					